全国子育てタクシー協会の補助事業概要

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

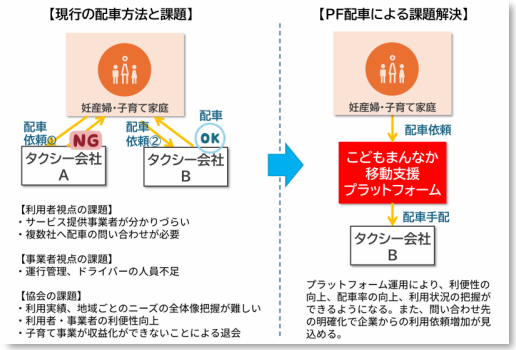
一般社団法人全国子育てタクシー協会：こどもまんなか移動支援プラットフォーム実証事業

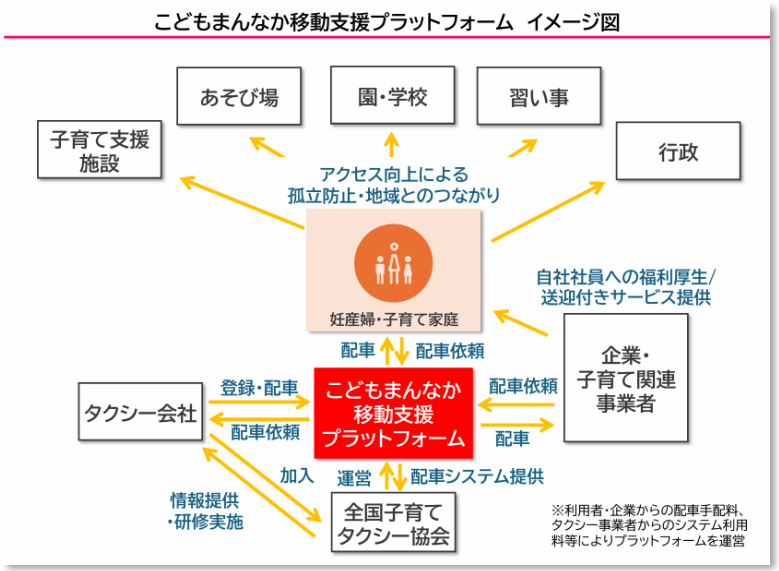
◆主旨

- 子育て家庭にとって移動は、日常生活や子育てを支える基盤であり、様々な子育て支援につながる入口でもある。
- 一方で、乳幼児を連れた移動への不安や周囲への気遣い、自家用車を利用できない状況、酷暑や悪天候などにより、外出や移動に負担を抱える家庭も少なくない。また、地域による交通環境の違いは、子育て家庭が支援へアクセスする機会の差にもつながっている。
- 本事業では**「こどもまんなか移動支援プラットフォーム」の基本構想を策定**することにより、子育て家庭と子育て支援に取り組む事業者をつなぐ環境整備の方向性を示す。

◆概要

- 第一段階として、全国規模のニーズ把握をもとにした基本構想策定、モデル地区での実証により、**「こどもまんなか移動支援プラットフォーム」のロードマップを描く**。





◆ポイント

- 基本構想を基にしたプラットフォームを実装することで、**子育て家庭の利便性向上、移動需要の見える化、子育て支援に取り組む事業者の認知拡大**が期待される。
- また、**通院や送迎等の負担軽減**による保護者支援に加え、**こどもの多様な体験や挑戦機会の拡大**、さらに外出機会の増加による**孤立防止や地域とのつながりづくり**にも寄与することが期待される。

◆今後の展望

- 次年度以降にプラットフォームの実装・運用を行う。
- また、**企業の福利厚生や子育て関連事業者による送迎付きサービス提供、自治体の子育て支援策と本プラットフォームを連携**することで、CCBの理念に基づく取組を全国へ横展開していく。

◆応募形式

一.　取組支援事業者が、他の企業のＣＣＢ取組を促す形式

◆実施業務

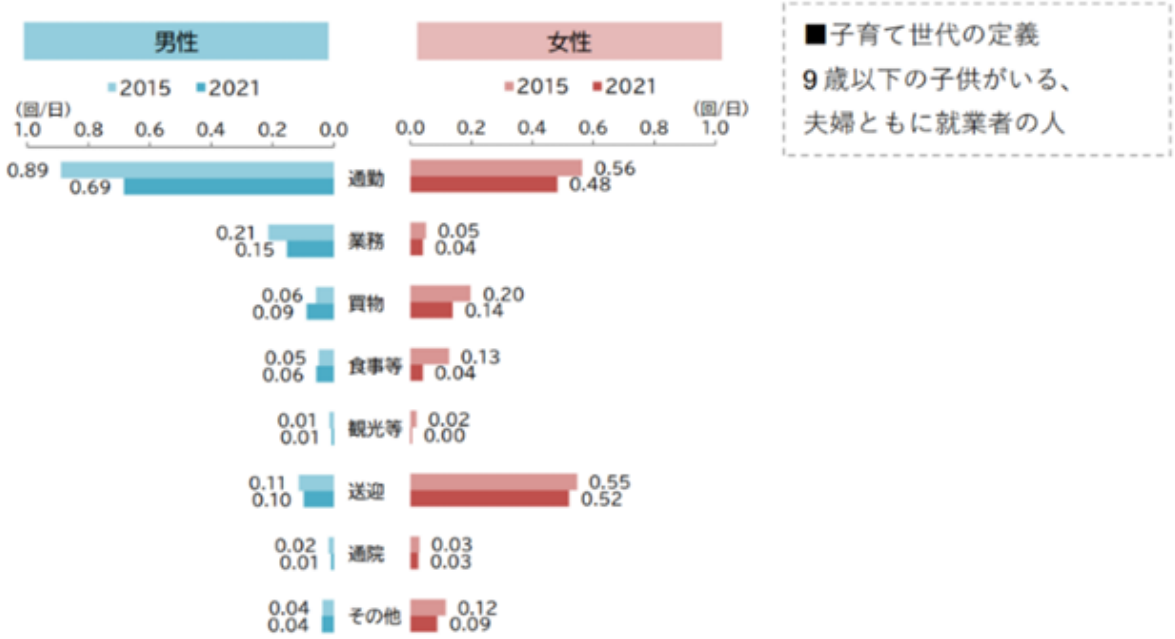
① こどもまんなか取組が評価されるための環境整備

（ご参考）事業の背景課題

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

子育て世代に着目して目的別の１日当たりの移動回数を比較すると、男性と女性で異なる傾向があり、特に「送迎」における差が多く、女性は男性の５倍以上移動している

背景・課題



※「その他」には「通学」「つきそい(2021 年調査より把握可能)」「その他の私用」を含む

出典：国土交通省都市局都市計画課 都市計画調査室．都市における人の動きとその変化～令和３年度全国都市交通特性調査集計結果より～．
https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001711623.pdf （2025 年 11 月 25 日閲覧）

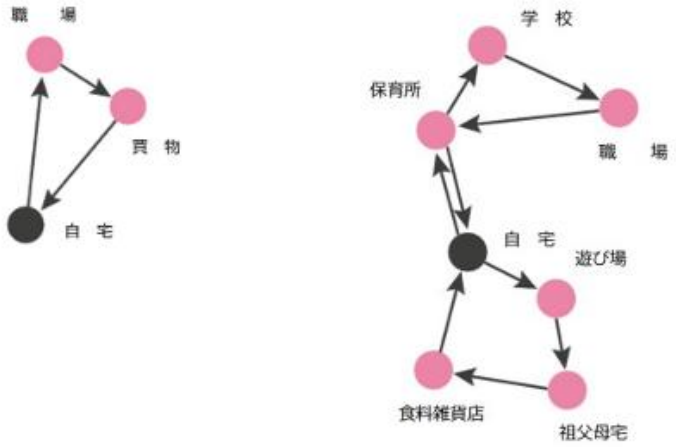
図 13　子育て世代の目的別１日当たりの移動回数（平日）

出所：国土交通省「若者、子育て世代及び女性のモビリティニーズに関する調査報告」

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

養育責任のレベルが異なる人々は移動パターンが異なるとされており、養育責任が大きい人（下図右側）は養育責任がほとんどない人（下図左側）に比して、複雑な移動パターンである（=負担が相対的に大きい傾向にある）ことが研究で明らかになっている

背景・課題



出典： Institute for Transportation and Development Policy. 乳幼児とその養育者のアクセス（Access for All: Access and Babies, Toddlers, and Their Caregivers）. https://itdp.org/publication/access-for-all-babies-toddlers-and-their-caregivers/ （2025 年 6 月 1 日閲覧）

図 14　養育責任のレベルが異なる人々の移動パターンの違い

出所：国土交通省「若者、子育て世代及び女性のモビリティニーズに関する調査報告」

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

モビリティニーズとしては、子どもの他に荷物も運ぶことが多くより多くのスペースが必要というニーズ及び移動時間が短く移動頻度が高いという特徴が挙げられている

背景・課題

表５　子育てを担う人のモビリティの特徴とニーズ

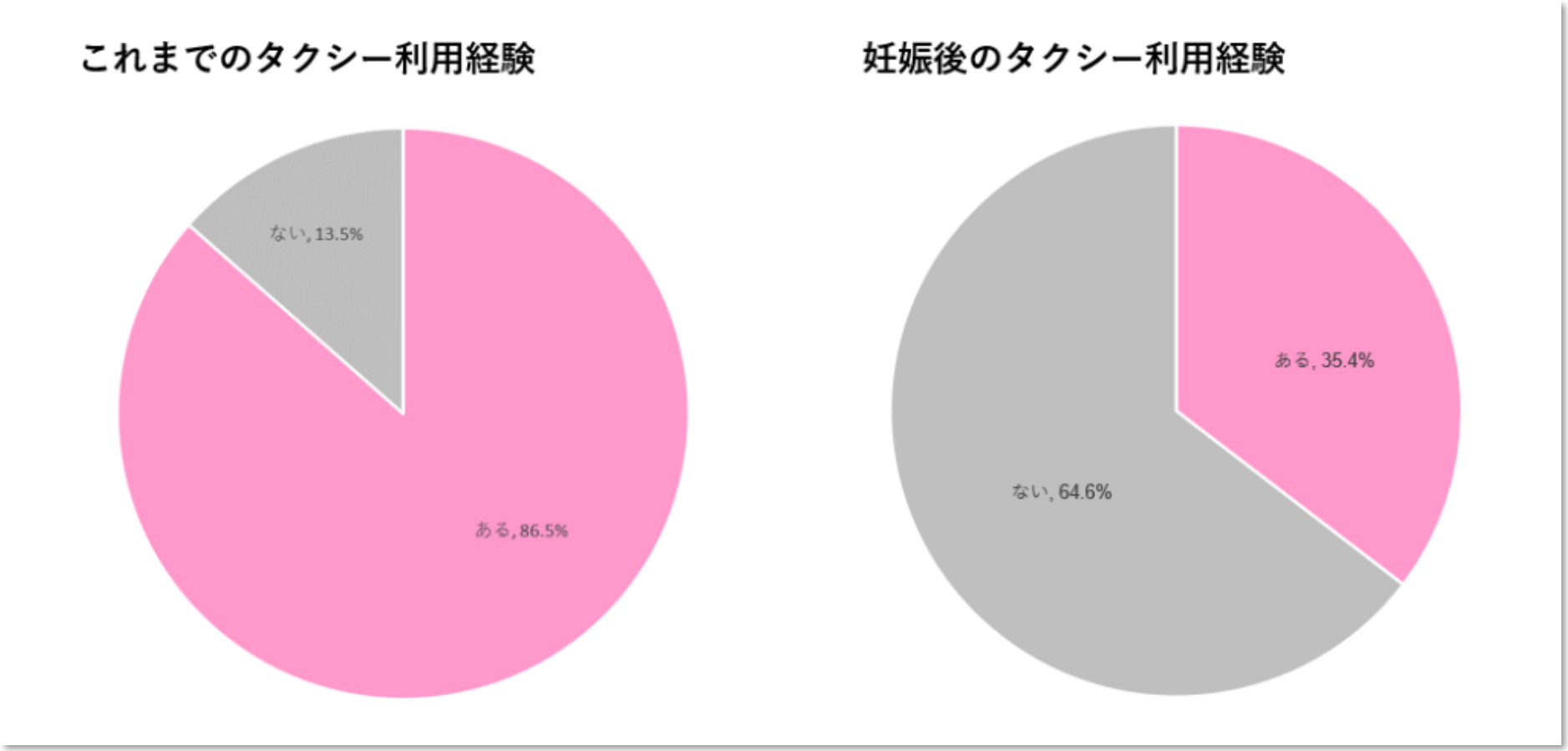
特徴	ニーズ等
移動手段に対する依存が高く、モノを運ぶことが多い	・子どもの他に荷物も運ぶことが多く、より多くのスペースが必要になる。 ・家族で移動する場合には旅行代金が高くなる。 ・荷物やベビーカーがあるため階段での移動が難しく、エレベーターやエスカレータを好む。
移動時間が短く、移動頻度が高い	・頻繁な授乳や寝かしつけ、幼児の予測できない性質や行動など、乳幼児の世話も管理する必要があるため、柔軟で短い移動や自宅に近い移動を好む傾向がある。 ・育児の難しさから、多くの養育者は、保育園、学校、放課後活動への送迎を容易にし、また、子どもの病気などの緊急事態に対応できるよう、近隣に雇用の選択肢を求めることがある。
歩行速度が遅い	・移動の状況、移動の方法と相手、養育者の能力、移動の目的によって異なるが、平均して１分間に 15～60m。
頻繁に立ち止まる	・幼児の興味による立ち止まり。 ・移動中における授乳、なだめすかし。
危険回避頻度が高い	・自分自身と幼い子どもの世話をしているため、障害や危険に対する感受性が高まる。 ・女性、社会から疎外された人種や民族の人々、高齢者、障害者は、ハラスメント、犯罪、暴力に対してより脆弱である可能性がある。
時間が限られている	・育児、他の家族の世話、仕事、家事などをこなし、マルチタスクをこなす必要がある。 ・自分のための時間やスペースを確保したり、乳幼児と触れ合ったりするだけでなく、１ 日の中でバランスを取らなければならない。 ・幼児を連れての移動は歩行速度が遅く、頻繁に立ち止まるため、養育者はしばしば時間的な制約を受ける。

出所：国土交通省「若者、子育て世代及び女性のモビリティニーズに関する調査報告」

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

妊娠中・子育て中のママを対象とした、タクシーの利用経験についての調査では、これまでにタクシーを利用したことがある人は約87％、第一子妊娠後にタクシーを利用したことのある人は約35％だった

背景・課題

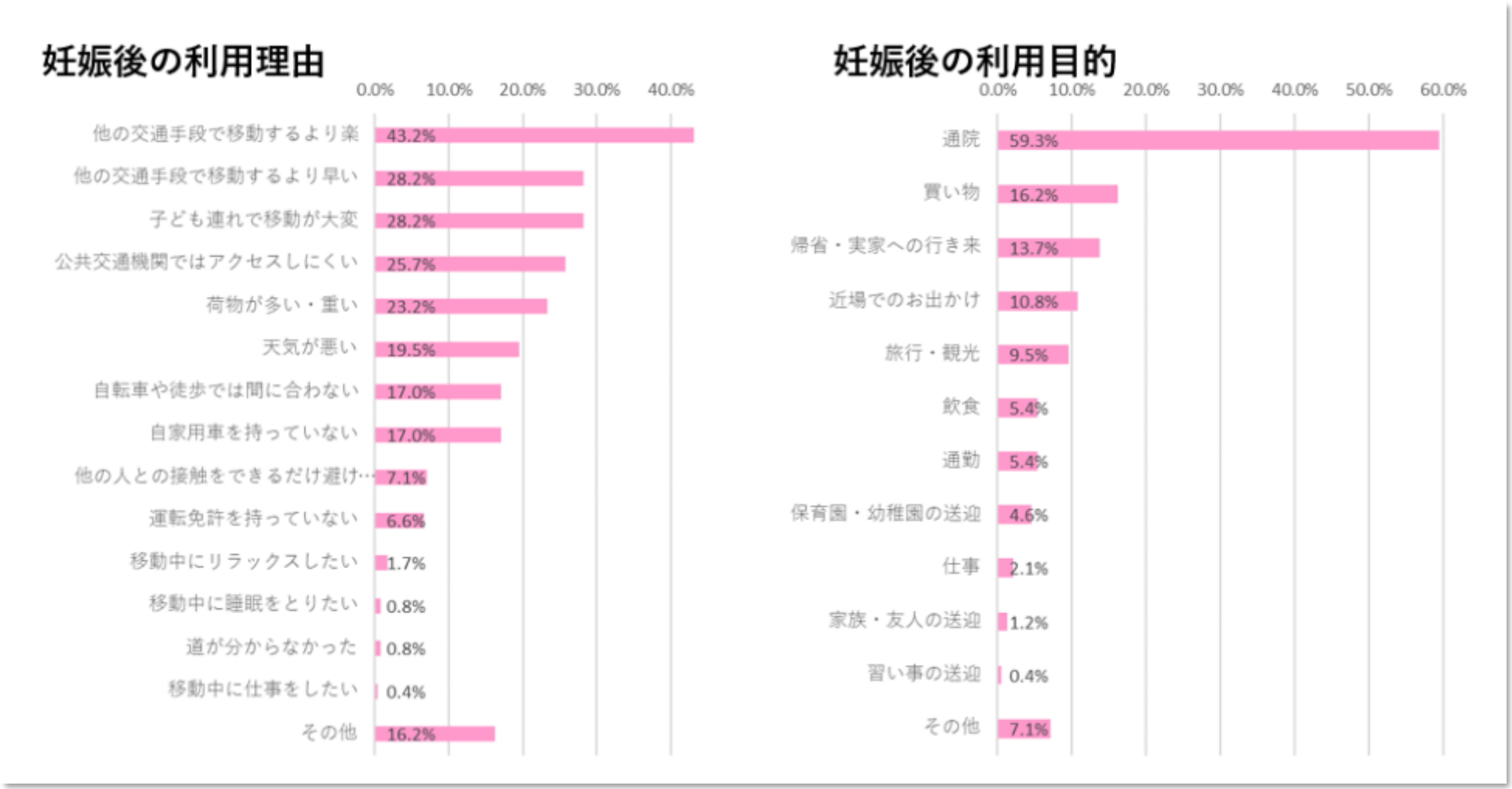


出所：株式会社コズレ「子育て世帯における「タクシー配車アプリ」利用　市場調査2024」

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

第一子妊娠後のタクシーの利用理由は「他の交通手段で移動するより楽」が約43％。また妊娠後の利用目的では「通院」が約59％と最も多く、他の理由に大きな差をつけている

背景・課題

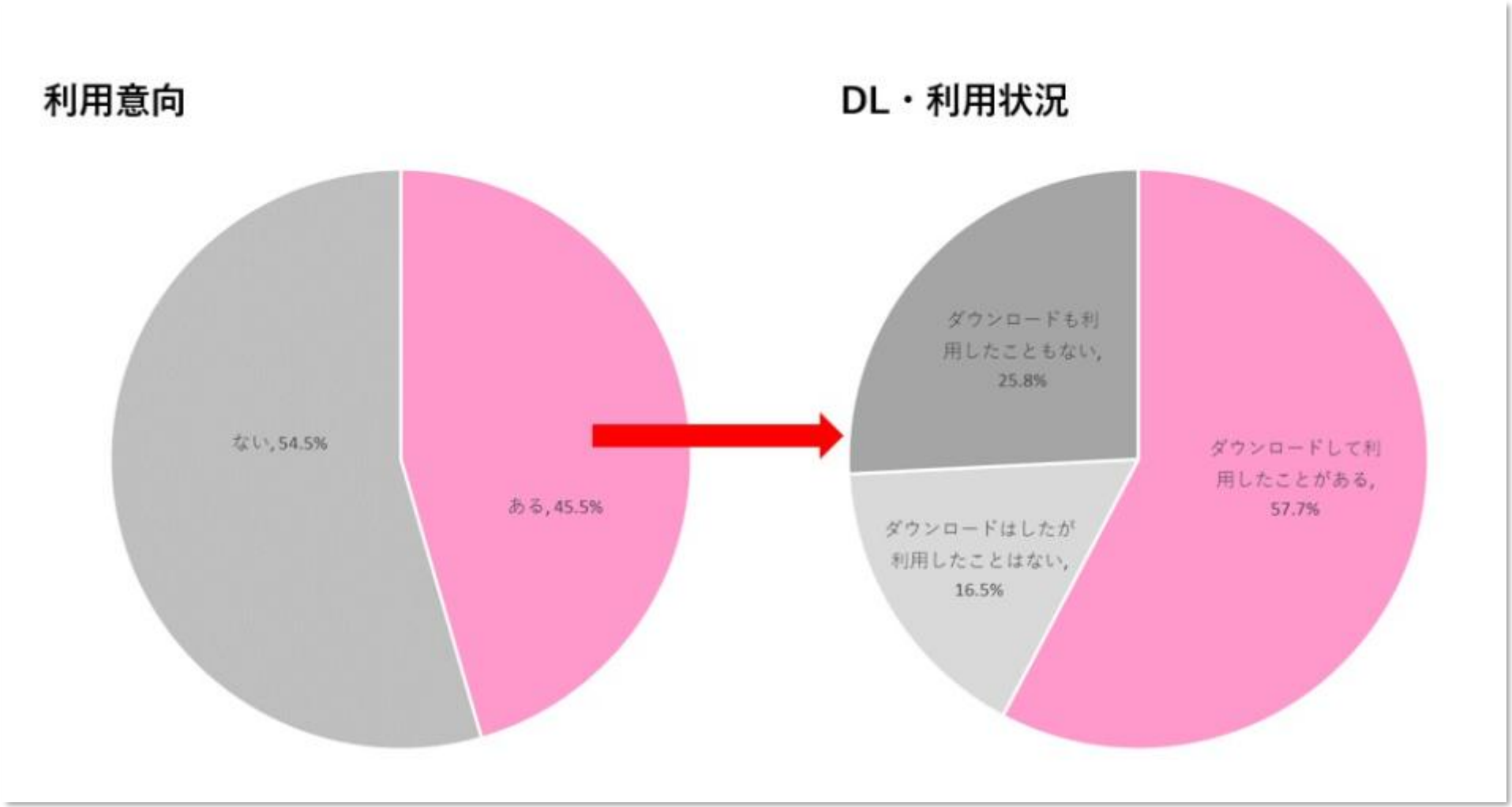


出所：株式会社コズレ「子育て世帯における「タクシー配車アプリ」利用　市場調査2024」

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

タクシー配車アプリの利用意向については、利用してみたいと思ったことが「ある」と回答した人は約46%。他方で、あくまで一般的なアプリにかかる意向等であり、比較的緊急度・重要度の高い妊産婦・子育て家庭が優先的に配車できるわけではないことが課題と推察

背景・課題



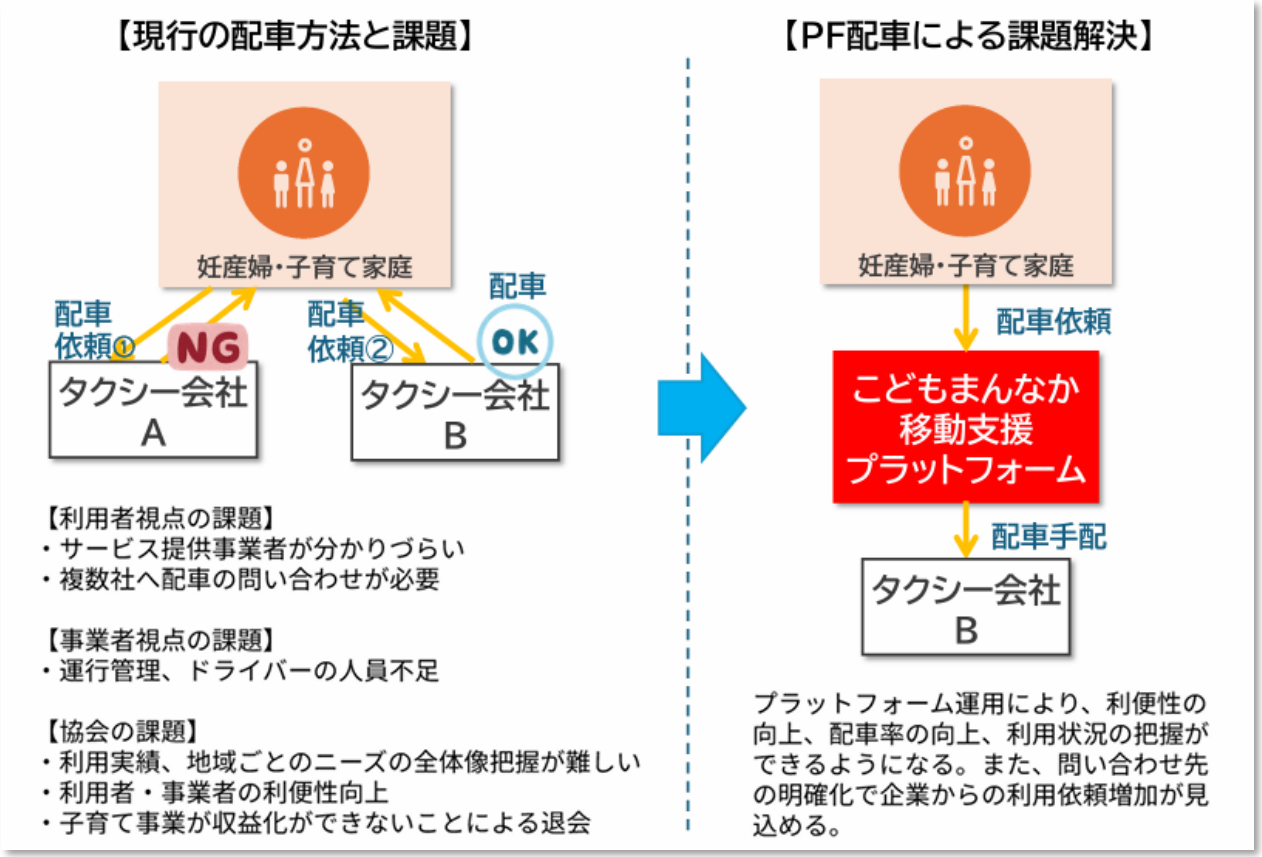
出所：株式会社コズレ「子育て世帯における「タクシー配車アプリ」利用　市場調査2024」

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

こどもまんなか移動支援プラットフォームを構築することを見据え、実態・ニーズ、課題の把握を行い、今後に向けたロードマップを作成することを目指して推進する

背景・課題

- 前頁のニーズのとおり、妊娠中や子育て中にはタクシー配車の緊急度・重要度が高い場面が様々あり得ると考えられる
- 他方で、現状は妊産婦・子育て家庭に特化したコールセンターやアプリ等はなく、**利用者側が円滑に利用できないという課題**がある
- 本補助事業では、当該課題の解決に向け、**こどもまんなか移動支援プラットフォームを構築することを見据え、実態・ニーズ、課題の把握を行い、今後に向けたロードマップを作成**することを目指して推進する



© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.